特集「デジタル社会の情報セキュリティとトラスト」の編集にあたって

島岡 政基[1,a)]

「デジタル社会の情報セキュリティとトラスト」特集号が出版の運びとなった．ここに編集委員会を代表して経緯と感謝を述べたい．

本特集号は 2020 年上期に企画され，26 名のメンバからなる編集委員会が編成された．同年 10 月に論文募集を開始し，5 カ月の投稿期間を経て 34 件の投稿を得，さらに 6 カ月の査読と照会を経て，最終的に 19 件（英語論文 4 件を含む）が採録された．採録率は 56%である．

今回は特集号の新たなテーマとしてトラストを据えた．信頼の基盤となる社会制度が紙文化からデジタル文化へと変化していく中で，デジタル社会のトラストの重要性が改めて注目されてきている．そして，このデジタル社会のトラストを支える重要な技術のひとつとして欠かせないのが情報セキュリティである．

本特集号では，トラストを構成する要素としての信頼性（Trustworthiness）を定量的・客観的に観測する手法の研究，それらの情報に基づくトラストのモデル化・定式化の研究，さらにはトラストの意思決定にかかわるトラストポリシの研究など，トラストに対する計算科学的なアプローチを可能とする技術に関する論文や，それに関連する暗号応用・プライバシ保護などの情報セキュリティ技術に関する論文についても広く募集した．トラストという情報処理技術に捉われないテーマを取り上げたこと，また継続的にいわゆる SoK（Systematization of Knowledge）論文の募集を行ったこともあり，従前の特集号著者陣とは異なる新しい分野や組織からの投稿を伸ばすとともに，また英文論文も含め予定を大きく上回る投稿数を獲得した．

査読プロセスにおいては，一回目判定では採録の可能性を最大限に高めることを目的として，「石を拾うことはあっても玉を捨てることなかれ」に基づき採録条件の提示に向けた丁寧な議論を，二回目判定では掲載論文の質を担保すべく，採録条件の後付けを厳に戒めるために条件の充足のみに焦点を絞る形で，慎重に採否の判定を行った．また，SoK 論文に関しては，通常の研究論文とは異なる査読方針に基づいて評価を行った．このような編集方針のもと，採録の余地がある原稿はできる限り拾いつつ，採録に至らなかった著者らに対しても，将来の質の高い再投稿につながる教育的配慮を実践できたと考えている．

採録された論文は，いずれも攻撃・対策やアイデンティティ管理・認証，プライバシ保護など幅広い要素技術を含みつつ，その半数近くが実社会での影響を考慮する形での評価や分析を主としたものであった．トラストをテーマに据えたことで，まさに技術と社会の関係性に関する議論が発展する可能性が示唆されたといえよう．

最後に，改めて本特集の機会を与えていただいた情報処理学会論文誌ジャーナル編集委員会，セキュリティ心理学とトラスト（SPT）研究会の諸氏に感謝し，本特集号の編集方針に沿って真摯な議論と懇切丁寧な査読をしていただいた編集委員各位に感謝するとともに，著者を支えてくれた査読者各位に感謝する．本特集がデジタル社会に求められる技術と社会の関係性に関する議論の発展と，デジタル社会におけるコンピュータシステムのセキュリティ技術向上に貢献することを心より願う．

「デジタル社会の情報セキュリティとトラスト」特集号編集委員会

- 編集委員長
  島岡政基（セコム株式会社 IS 研究所）
- 編集副委員長
  金森祥子（国立研究開発法人情報通信研究機構）
  坂本一仁（株式会社 DataSign）
- 編集委員
  猪俣敦夫（大阪大学），稲葉　緑（情報セキュリティ大学院大学），上原哲太郎（立命館大学），大坐畠智（電気通信大学），金岡　晃（東邦大学），小松文子（長崎県立大学），五味秀仁（ヤフー），駒野雄一（東芝），斯波万恵（東芝），白石善明（神戸大学），高田哲司（電気通信大学），高橋克巳（日本電信電話），田中健次（電気通信大学），角尾幸保（東京通信大学），手塚　伸（日立製作所），寺田真敏（日立製作所），西垣正勝（静岡大学），畑島　隆（日本電信電話），松浦幹太（東京大学），宮本大輔（東京大学），村山優子（津田塾大学），毛利公一（立命館大学），山田　明（KDDI 総合研究所）

1　セコム株式会社 IS 研究所
Intelligent Systems Laboratory, SECOM CO., LTD., Japan
a)　m-shimaoka@secom.co.jp

© 2021 Information Processing Society of Japan